

平成30年度 第2回 宇部市地域自立支援協議会 会議録

日 時:平成 31 年 2 月 21 日(木) 18:00~20:00

場 所:宇部市総合福祉会館 4階 大ホール

出席者:委員 16 名(欠席者 2 名)

委員 土屋会長、溝田副会長、安光委員、枝村委員、錦谷委員、花藤委員、廣永委員、大海委員、佐伯委員、藤本委員、墨田委員、各務委員、中村委員、須藤委員、井上委員、甲斐委員

市 健康福祉部 佐々木参事

障害福祉課 藤原課長、石津主幹、井上副課長、中村係長、深津係長、松井主任

地域福祉・指導監査課 梶山福祉総合相談センター長

教育委員会教育支援課 牧田副課長

宇部市社会福祉協議会 地域福祉課 石崎係長

(傍聴者):なし

1 議事

(1) 医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置について

- ・医療的ケア児支援のための関係機関の協議の場の設置について(資料1)
 - ・医療的ケア児について(資料1参考資料1)
 - ・学校において行われる医療的ケアの例(資料1参考資料2)
 - ・医療的ケア児の現状(推計値)(資料1参考資料3)
 - ・地域における医療的ケア児の支援体制の整備(資料1参考資料4)
- (事務局)別添(資料1)に沿って説明

(会長)医療は日々進歩しており、平成10年代であれば800gくらいの未熟児で生まれた子供は助からなかったが、現在は無事成長することができている。少子高齢化の中で子供の数は減っているが、そういった子供が成長する上で、医療的ケアが必要なケースが増えているのではないか。

(会長)説明についてのご意見、ご質問はありますか。

■質疑応答等

- 糖尿病でインスリンを注射している子供の心のケアも必要である。なかにはひきこもりになっているケースもある。
- 子供だけでなく、親も含めた心のケアが必要なのではないか。
- 放課後デイサービスなどを行っている法人で働いているが、知識を持っているスタッフがいないので医療的ケアが必要な児童は受け入れていない。
- 医療的なケアが行える専門スタッフが少ないという状況があるのではないか。

●県の施策として、総合支援学校は看護師を派遣してもらっている。医療的ケアを受けるためだけに総合支援学校に通学している児童もいる。

(委員) 県内の総合支援学校にはすべて看護師がいるのか。

●県の施策なので、県内の総合支援学校にはすべて看護師が派遣されている。宇部総合支援学校では、毎日、1日6時間勤務で4人が交代して非常勤職員として勤務している。

●相談支援専門員としては、医療との連携が必要だと感じる。子供が小さい時から家族が福祉サービスを使わずに育てていたが、親が歳をとり難しくなり、大人になってから福祉サービスを少しずつ利用するという場合もある。

●障害者においては、福祉と医療の連携が非常に重要で、医療的ケア児も同様と思っている。

●医療的ケアが必要な人に対して理解が必要である。福祉と医療を総合的に考えていく必要がある。

(会長) 医療的ケア児のための関係機関の協議の場の設置について事務局案の通りとしてよろしいでしょうか。

(出席委員全員の賛成)

(会長) それでは、事務局案の通りとします。今後の進め方についてもよろしくお願いします。

2 報告

(1) 「障がい等地域支援ブロック会議」及び「支援センター、社会福祉協議会及び障害福祉課連絡会議」の報告

(事務局) 別添(資料2)に沿って障がい等地域支援ブロック会議等の報告の説明

(会長) 説明についてのご意見、ご質問はありますか。

■質疑応答等

●発達障害の就労支援をしているが、ひきこもりをしていて社会に出ることができなくなった人を連携して就労B型からA型へつないだ。障害特性からなかなかすすめることができず、本人も興味を持ってないことがある。

●発達障害の人でこだわりが強く、望む仕事の適性検査をみて、その結果を振り返る。それを見て受け入れる企業もある。

(会長) 障害福祉サービスから介護保険への移行はどうでしょうか。

●就労支援のサービスを受けている人も高齢化が進んでおり、70歳を超えている人もいる。その中で介護保険という言葉が怖いという声も聞こえ、移行が非常に難しい。元気なうちはしっかりと働きたいとみな思っている。

10月に実施した障害と介護保険の事業所の合同研修会はとても好評で情報の共有のためになってよかった。障害福祉サービスの現場の職員が介護保険の事業所のケアマネともつながりを作っ

ていくことが大事である。

また、総合支援法では、福祉サービス利用者が事業所を変えてみることもできるので、遠慮なく事業所を変えたらいいと思う。

●グループホームと高齢者のデイサービスと就労B型の事業所をしている。就労B型からデイサービスに行くようになり、就職になかなかつながらない。就労B型からA型へ変わる人は若い人が多い。思いと能力の落差がある。ジョブコーチをつけて就職させるのはある程度できる人が多い。

(会長)脳にダメージを受け障害者になった人はどうでしょうか。

●交通事故による脳の障害が多い。子供でも大人でもどの人でもあり得るが、理解促進を図ることが難しい。研修会を開き、お互いを知るといことを行動に移していきたい。

●65歳の問題がある。年をとっただけで障害が軽くなったわけではないのに、介護保険になると無料から1割負担になってしまい、不安になってしまう。私は、目が見えなくなって、どうにか点字教室へ行き、話をすることによって信頼できる人と巡り合うことができた。障害者の障害特性を理解することを推進していきたい。

(2) 宇部市バリアフリー化マスタープランの策定について

(事務局)別添(資料3)に沿って宇部市バリアフリー化マスタープランの策定の説明

(会長)説明についてのご意見、ご質問はありますか。

■質疑応答等

●みんなにやさしいまちを作ることをしていきたい。支援に切れ目がないようにというがどうしても切れてしまう。個人情報の件があり難しいが、切れ目がないように誰もが安心してくらせるまちを作ってほしい。

●バリアフリー化をすることにより地域が活性化すればいいと思う。バリアフリー化をしたが誰も歩いていないという結果にならないようにする必要がある。地域をどれだけの人が歩くのか、高齢者に対しては、お店や市の施設の周辺がいいのではないか。

●宇部市内の駅はバリアフリー化ができていない。琴芝駅から車いすで乗ろうとしたが断られていた。促進地区についてしっかり選定してほしい。

3 その他

(1) ヘルプカードについて

(事務局)ヘルプカードの説明

(2) 福祉なんでも相談窓口について

(事務局)福祉なんでも相談窓口の説明